

付

## 特許・実用新案登録一覽

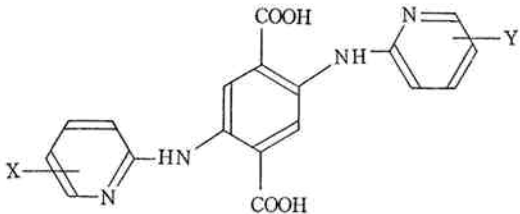
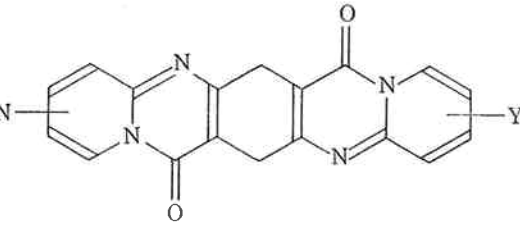
—昭和57年度—

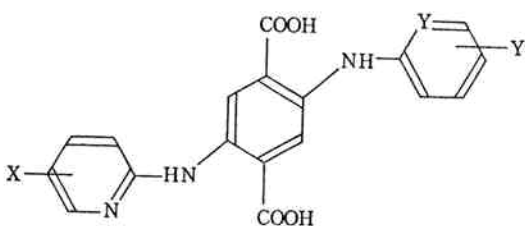
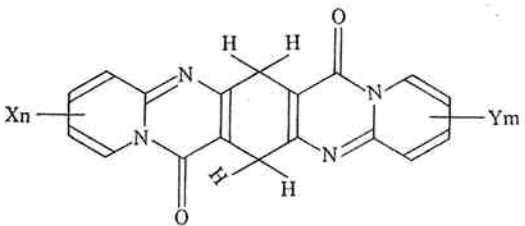
&lt;日本特許&gt; 73件

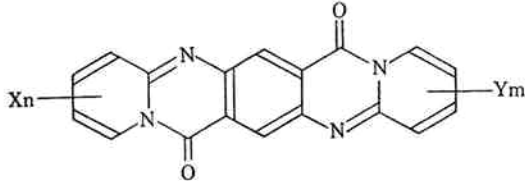
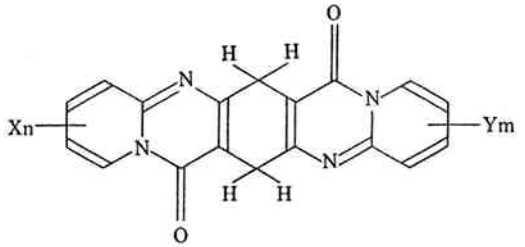
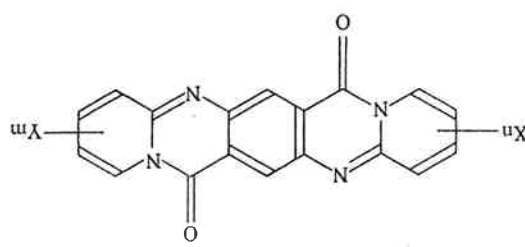
№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
1	48-52474 (48. 5.14)	56-22356 (56. 5.25)	1079739 (57. 1.25)	静電塗装用塩化ビニル系粉体塗料組成物 (大橋 孝一, 高橋 勇治, 鈴木 孝)	(1) 塩化ビニル単量体と, その重合速度より早い共重合速度を有し, かつ単重合体の二次転移点が塩化ビニル単量体のそれより低い少くとも一種の塩化ビニル単量体と共重合し得る単量体とを水性媒体中で界面活性剤および顔料ならびに必要な応じて劣化防止剤の存在下, 循環回数が5~30/分の攪拌のもとで前記単量体が乳化共重合させることを特徴とする直径が30~250ミクロン, 体積固有電気抵抗 $10^9 \sim 10^{13} \Omega \text{cm}$ , 嵩比重0.3以上の実質的に球形の粒子よりなる静電塗装用粉体塗料組成物。 (2) 塩化ビニル単量体と, その重合速度より共重合速度を有し, かつ単重合体の二次転移点が塩化ビニル単量体のそれより低い少くとも一種の単量体とを水性媒体中で界面活性剤, 顔料および流動性向上剤の存在下, 循環回数が5~30/分の攪拌のもとで前記単量体を乳化共重合させ, 重合終了後この系に熱分解防止剤を加えたのち重合体を水性媒体から分離取得することを特徴とする直径約30~250ミクロン, 体積固有電気抵抗 $10^9 \sim 10^{13} \Omega \text{cm}$ , 嵩比重0.3以上の実質的に球形の粒子よりなることを特徴とする静電塗装用粉体塗料組成物。
2	51-11326 (51. 2. 6)	56-24578 (56. 6. 6)	1079820 (57. 1.25)	触媒の回収方法 (大塩 通昭, 松原 健一, 提 幸弘, 菊地 光雄)	(1) 銅化合物を触媒としてジクロロベンゼンとアンモニアを反応させてフェニレンジアミンを生成させた反応生成液から, 銅触媒成分を回収するに当り, 反応生成液にアルカリを添加して pH を11から13として銅触媒成分を析出させ, 析出した銅触媒成分を含む反応生成液を水との共沸蒸留に付したのち, 蒸留残液より銅触媒成分を分離回収することを特徴とする触媒の回収方法。 (2) 銅化合物を触媒としてジクロロベンゼンとアンモニアを反応させてフェニレンジアミンを生成させた反応生成液から, 銅触媒成分を回収するに当り, 反応生成液にアルカリを添加して pH を11から13として銅触媒成分を析出させ, 析出した銅触媒成分を含む反応生成液を水との共沸蒸留に付した後又は付さないで, 水と部分的に混和する有機溶剤と接触させ, 銅触媒成分を有機溶剤相とともに大部分

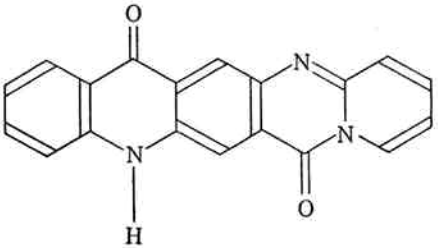
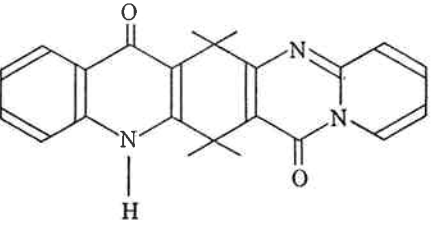
№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					の水相と分離し、更にこれを有機溶剤相から分離回収することを特徴とする触媒の回収方法。
3	51-115413 (51. 9.28)	56-21001 (56. 5.16)	1079837 (57. 1.25)	飼料用防黴剤組成物 (五十嵐辰夫)	(1) 有効成分として、プロピオン酸及び/又はその塩と、プロピオン酸残基に対して約0.3乃至約20重量パーセントのヘキサメチレンテトラミンを含む飼料用防黴剤組成物。 (2) 飼料に、その100重量部当りプロピオン酸残基として約0.05乃至約5重量部のプロピオン酸及び/又はその塩と、同じく100重量部当り約0.001乃至約0.5重量部のヘキサメチレンテトラミンを添加することを特徴とする飼料に黴類等の有害生物が増殖することを防止する方法。
4	48-45701 (48. 4.24)	56-26946 (56. 6.22)	1082612 (57. 1.29)	乾電池 (松田竹三郎, 小山 明夫, 小柴 淳治)	フマール酸またはテレフタル酸を陽極合剤中に含有させたことを特徴とするマンガン乾電池。
5	53-42154 (53. 4.12)	56-25451 (56. 6.12)	1082685 (57. 1.29)	多孔質板表面に強固に結合した高分子薄膜を形成せしめる方法 (大野省太郎, 小山 憲治, 福田 三寿, 清水 明彦)	多孔質板に水、エチレングリコール、グリセリンあるいは、これらの混合物を含浸させて、その表面に高分子溶液を塗布、乾燥して該多孔質板表面に高分子薄膜を形成せしめるにあたり、該多孔質板の両面に圧力差を与えたまま高压側に高分子溶液を塗布し蒸発させることを特徴とする多孔質板表面に強固に結合した高分子薄膜を形成せしめる方法。
6	51-42412 (51. 4.16)	56-26613 (56. 6.19)	1084175 (57. 2.25)	連鎖状炭酸カルシウムの製造方法 (有家 潤二, 滝谷 賢, 御手洗計治, 山本 和明)	水酸化カルシウムの水性懸濁液を二酸化炭素により炭酸化して連鎖状炭素カルシウムを製造するに際して、0~30°Cでキレート剤の存在下で炭酸化する第一次炭酸化工程と該一次炭酸化工程終了後の懸濁液に水溶性金属塩あるいはアルカリ金属の硫酸塩またはリン酸塩類の存在下で炭酸化する第二次炭酸化工程からなることを特徴とする連鎖状炭酸カルシウムの製造方法。
7	52-89725 (52. 7.28)	56-28485 (56. 7. 2)	1084202 (57. 2.25)	灌水パイプおよびその製造方法 (岡田 宏亮, 園田 武文, 後藤 鉄之)	(1) 同種又は異種の熱可塑性樹脂から少くともなる積層フィルムの積層面の長手中央が剥離して形成する導管部と、この導管部の両長手側面にひれ状に突き出た積層接合部よりなり、この接合部に、離間間隔で存在するより糸、引うそろえ糸、異形断面糸、あるいはエンボスストリップと基材との間で形成している細隙からなる小口径散水流路を有することを特徴とする灌水パイプ。 (2) 長手方向に平行な多数の縞状帯模様の剥離性皮膜を、フィルムの表面に設けた熱可塑性樹脂の広巾、長尺フィルムを基材とし、この基材に、基材との間に細隙を形成することのできるより糸、引きそろえ糸、異形断面糸、あるいはエンボスストリップを、縞状帯模様と交叉する方向に離間間隔で挿入しながら熱可塑性樹脂フィルムをラミネートした後、隣り合う帯模様の間を長手方向にスリットすることを特徴とする灌水パイプの製造方法。

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
8	53-103869 (53. 8.28)	56-26720 (56. 6.20)	1084217 (57. 2.25)	クロム、ニッケルを含 め合金メッキ液	(1) 1) 3価クロム, 2)ニッケル, 3)アミノ酸, カルボン酸, オキシカルボン酸又はこれらの 酸の塩からなる群から選ばれた少なくとも1 種, 4)アルミニウム塩, 5)アンモニウムイ オンを含むクロム, ニッケルを含め合金メッキ 液。 (2) 1) 3価クロム, 2)ニッケルならびにクロ ム, ニッケルと共析可能な金属, 3)アミノ酸, カルボン酸, オキシカルボン酸又はこれらの 酸の塩からなる群から選ばれた少なくとも1 種, 4)アルミニウム塩, 5)アンモニウムイ オンを含むクロム, ニッケルを含め合金メッキ 液。
9	51-41201 (51. 4.14)	56-31160 (56. 7.20)	1086523 (57. 2.26)	生物系汚泥の改質法	生物系汚泥に軽焼マグネシアを添加することを 特徴とする生物系汚泥の改質法。
10	52-32280 (52. 3.25)	56-32912 (56. 7.30)	1089277 (57. 3.23)	微生物菌体の製造法	メタノールを主たる炭素源とした培地にシェー ドモナス・ビスコゲナに属するメタノール資化 性細菌を培養し, 該培養液から細菌菌体を分離 することを特徴とする微生物菌体の製造法。
11	52-94928 (52. 8.10)	56-33072 (56. 7.31)	1089280 (57. 3.23)	微生物菌体の製造法	水溶性炭素源として低級アルコール, 低級脂肪 酸又は糖を含む培地にシェードモナス・ベラに 属する細菌を培養し, 培養液から菌体を分離採 取することを特徴とする微生物菌体の製造法。
12	52-119087 (52.10. 5)	56-33073 (56. 7.31)	1089283 (57. 3.23)	微生物菌体の製造方法	主炭素源としてメタノールを含め培地にシェー ドモナス・フラボメタノロフィラに属する細菌 を培養し, 培養液から菌体を分離採取するこ とを特徴とする微生物菌体の製造方法。
13	50-105784 (50. 9. 1)	56-35797 (56. 8.19)	1091315 (57. 3.31)	被覆金属管	(1) 金属管の表面に, 酢酸ビニル含量が15~40 重量%でメルトインデックスが10~1,000 g/10分のエチレン-酢酸ビニル共重合体ま たはエチレンエチルアクリレートを5~50重 量部と低分子量ポリプロピレン-エチレン共重 合体の酸化物または低分子量ポリプロピレンの 酸化物2~30重量部とスチレン-ブタジエン 共重合体, ポリイソプレン, プチルゴム, ク ロルスホン化ポリエチレン, ポリイソブチ レンより選ばれた少くとも1種とを5~35重 量部と粘着化樹脂を5~50重量部と無定形ポリ プロピレン10~80重量部とを配合してなる組 成物を熱溶融被覆金属管。 (2) 特許請求の範囲第1項の被覆金属管の表面 にポリエチレン, ポリプロピレン等の熱可塑 性樹脂を外層として被覆した被覆金属管。
14	50-105786 (50. 9. 1)	56-35798 (56. 8.19)	1091316 (57. 3.31)	被覆金属管	(1) 地下埋設用の金属管の表面に, 酢酸ビニル 含量が15~40重量部でメルトインデックスが 10~1,000g/10分のエチレン-酢酸ビニル共 重合体とメルトインデックス1.5~20g/10 mmのエチレンエチルアクリレート樹脂の 少くとも1種とを5~30重量部と低分子量プロ ピレン-エチレン共重合体の酸化物または

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					<p>低分子量ポリプロピレンの酸化物2~30重量部とポリイソプレン, ブチルゴム, ポリイソブチレン, クロルスルホン化ポリエチレンを5~30重量部と粘着樹脂を5~50重量部とアスファルト10~80重量部とを配合してなる組成物を熱溶融被覆したことを特徴とする被覆金属管。</p> <p>(2) 特許請求の範囲第1項の被覆金属管の表面にポリエチレン, ポリプロピレン等の熱可塑性樹脂を外層として被覆した被覆金属管。</p>
15	48-113806 (48.10.12)	56-36206 (56. 8.22)	1091874 (57. 4.16)	ニッケル-コバルト系合金スクラップの塩素化法	<p>ニッケルまたはコバルトの一種以上を含有する合金, スクラップまたは鉱石からの半製品を溶解し得られた溶融物中に酸素または酸素含有ガスを通じて前記合金, スクラップまたは鉱石からの半製品に含有されているケイ素, アルミニウム, 炭素, チタンなどを酸化物とし, 同伴した泥, 砂, 油などととも除去し, ついで溶融物を水砕し得られた合金粒または粉末を水性媒体に浸漬したのち, これに塩素を通ずることを特徴とする前記ニッケル-コバルト系合金スクラップの塩素化法。</p>
16	47-50374 (47. 5.23)	54-38597 (54.11.21)	1093064 (57. 4.16)	重金属捕捉材料	<p>活性炭に硫酸バリウム, 硫化鉄, 硫化亜鉛, 硫化マンガンおよび分子中に式</p> $\begin{array}{c} \text{S} \\   \\ \text{N}-\text{C}-\text{S}-\text{X} \end{array}$ <p>(式中, Xは環を構成しないS, C, Nまたは金属原子を示し, ーは単結合または二重結合を示す。) で表わされる原子団をもつ化合物の群より選ばれた少なくとも1種の化合物を担持させた水溶液中の重金属捕捉材料。</p>
17	52-25681 (52. 3. 9)	56-38149 (56. 9. 4)	1093140 (57. 4.16)	テレフタル酸誘導体及びその製造法	<p>(1) 一般式</p>  <p>(式中X及びYは水素又は炭素数1乃至3のアルキル基である) で表わされるテレフタル酸誘導体。</p> <p>(2) 一般式</p>  <p>(式中X及びYは水素又は炭素数乃至3のアル</p>

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					<p>キル基である) で表わされる6・7・14・15-テトラヒドロピリド [2・1-b] ピリド [1'・2':1・2] ピリミド [4・5-g] キナゾリン-7・15-ジオン類を液状媒体中アルカリ性で酸化開環させることを特徴とする一般式</p>  <p>(式中X及びYは前記と同じ意味である) で表わされる2・5-ビス (2-ピリジルアミノ) テレフタル酸類の製造法。</p>
18	48-36234 (48. 3.31)	56-32038 (56. 7.24)	1095034 (57. 4.27)	懸濁液の処理方法  (大槻 進, 有家 潤二, 坊上 成信)	<p>(1) 含水アルミナ質のケイ酸塩を主成分とする粘土に対し, そのケイ素以外の金属酸化物当り 0.6~1 化学当量の 鉍酸を加え処理して得られる生成物を凝固剤として使用することを特徴とする懸濁液の処理方法。</p> <p>(2) 含水アルミナ質のケイ酸塩を主成分とする粘土に対し, そのケイ素以外の金属酸化物当り 0.6~1 化学当量の 鉍酸を加え処理して得られる生成物を凝固剤とし, これに水溶性有機高分子量重合体を凝集剤として併用することを特徴とする懸濁液の処理方法。</p>
19	51-150746 (51.12.17)	56-40145 (56. 9.18)	1095058 (57. 4.27)	芳香族ジアミンの製造法  (大塩 通昭, 提 幸弘, 菊地 光雄)	芳香族ジハライドとアンモニアとを芳香族ジハライドに対して少なくとも2モル倍量の水の存在下, 銅化合物を触媒として, 液相で反応させて芳香族ジアミンを製造するに当り, 反応温度条件下及び反応圧力条件下における反応開始時の水相でのアンモニア濃度を40乃至70重量%とすることを特徴とする芳香族ジアミンの製造方法。
20	51-17887 (51. 2.23)	56-42322 (56.10. 3)	1097376 (57. 5.14)	無機凝集剤の製造方法  (宮之原 勲, 宮崎 弘, 河村 秀雄)	硫酸アルミニウムと塩化アルミニウムの混合水溶液に炭酸カルシウムを硫酸イオンと等モル添加, 反応させて得られた塩基性塩化アルミニウム水溶液に 60°C 以下でアルカリ剤を添加することにより塩基度65~70を付与したことを特徴とする塩基性塩化アルミニウム凝集剤の製造方法。
	51-27718 (51. 3.16)	56-41663 (56. 9.29)	1097379 (57. 5.14)	キナゾロン誘導体の製造法  (横山 泰一, 岩本 英次)	<p>(1) 一般式</p>  <p>(式中X及びYは炭素数1~3のアルキル基,</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
21					<p>炭素数 1～3 のアルコキシ基又はハロゲンであり、n 及び m は 0, 1 又は 2 である) で表わされる 6・14-ジヒドロピリド [2・1-b] ピリド [1'・2':1・2] ピリミド [4・5-g] キナゾリン-7・15-ジオン類を 液体媒体中 酸性条件下においてキノン類を酸化剤として酸化することを特徴とする一般式</p>  <p>(式中 X, Y, n 及び m は上記と同じである) で表わされるピリド [2・1-b] ピリド [1'・2':1・2] ピリミド [4・5-g] キナゾリン-7・15-ジオン類の製造法。 (2) 一般式</p>  <p>(式中 X 及び Y は炭素数 1～3 のアルキル基, 炭素数 1～3 のアルコキシ基又はハロゲンであり、n 及び m は 0, 1 又は 2 である) で表わされる 6・14-ジヒドロピリド [2・1-b] ピリド [1'・2':1・2] ピリミド [4・5-g] キナゾリン-7・15-ジオン類を 濃硫酸中でキノン類を酸化剤として酸化し、得られた反応液を必要に応じてろ過した後氷水中に注加し、析出した結晶を含む分散液を中和し、これより微結晶固型分を採取することを特徴とする一般式</p>  <p>(式中 X, Y, n 及び m は上記と同じである) で表わされるピリド [2・1-b] ピリド [1'・2':1・2] ピリミド [4・5-g] キナゾリン-7・15-ジオン類の製造法。</p>

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
22	53-73703 (53. 6.20)	56-43259 (56.10.12)	1097425 (57. 5.14)	5-H-ピリド [1'・2':1・2] ピリミド [4・5-b] アクリジン-7・15-ジオン及びその製造法	<p>(1) 式</p>  <p>で表わされる 5H-ピリド [1'・2':1・2] ピリミド [4・5-b] アクリジン-7・15-ジオン。</p> <p>(2) 式</p>  <p>で表わされる6・14-ジヒドロ-5H-ピリド [1'・2':1・2] ピリミド [4・5-b] アクリジン-7・15-ジオンを脱水素することを特徴とする 5H-ピリド [1'・2':1・2] ピリミド [4・5-b] アクリジン-7・15-ジオンの製造法。</p>
23	53-26015 (53. 3. 9)	56-2112 (56. 1.17)	1098249 (57. 5.27)	押出コーティング可能な熱活性型接着剤組成物	<p>酢酸ビニル含量5重量%から30重量%のエチレン-酢酸ビニル共重合樹脂75重量%から97重量%ならびに環球法軟化点 60°C から 130°C の脂環族炭化水素樹脂および/または 脂肪酸系炭化水素樹脂 3重量%から25重量%の混合組成物 100重量部に対し、 脂肪酸が65以上の脂肪酸アミド10重量%から90重量%及び/または脂肪酸アミド10重量%から90重量%の混合物を0.03重量部から3重量部を配合してなる組成物で、さらに、そのメルト・インデックスが2g/10分から55g/10分であることを特徴とする高速押出コーティング加工が可能な熱活性型接着剤組成物。</p>
24	52-88863 (52. 7.26)	56-45488 (56.10.27)	1099660 (57. 6.18)	塩化ビニル及び/又は塩化ビニル系単量体の気相重合方法	<p>セルローズ誘導体の存在下で塊状重合を行ない得られた塩化ビニル及び/又は塩化ビニル系重合体を種重合体として用い、重合圧力を用いる単量体の重合温度における飽和蒸気圧より小として重合することを特徴とする塩化ビニル及び/又は塩化ビニル系単量体の気相重合方法。</p>
25	53-43281 (53. 4.14)	56-45512 (56.10.27)	1099668 (57. 6.18)	キナクリドン顔料の製造方法	<p>6・13-ジヒドロ キナクリドン をジメチルスルホキシド中で水、アルカリ、および酸化剤の存在下に加熱して酸化し、キナクリドン溶液としたのち極性溶剤又は酸で希釈して微細化することを特徴とするキナクリドン顔料の製造方法。</p>
26	52-103141 (52. 8.30)	56-45854 (56.10.29)	1101352 (57. 6.25)	ニケイ化クロムの製造法	<p>還元剤とクロムのハロゲン化合物およびケイ素とを不活性雰囲気中で加熱することを特徴とするニケイ化クロムの製造法。</p>

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
27	53-49968 (53. 4.28)	56-45513 (56.10.27)	1101356 (57. 6.25)	ウルトラマリン顔料の製造方法 (田村 幾夫, 月館 隆明, 有家 潤二)	<p>(1) A型ゼオライト, X型ゼオライトおよびY型ゼオライトなる群から選ばれた少なくとも1種のゼオライトと, 一般式: <math>A_2Sx</math> (式中Aはアルカリ金属元素, x は1~5の範囲の数を示す) で示されるアルカリ金属硫化物又は還元性物質の存在下若しくは不存在下にアルカリ金属源およびイオウの混合物とを非酸化性雰囲気中で加熱してウルトラマリングリーンを得ることを特徴とするウルトラマリン顔料の製造方法。</p> <p>(2) A型ゼオライト, X型ゼオライトおよびY型ゼオライトなる群から選ばれた少なくとも1種のゼオライトと 一般式: <math>A_2Sx</math> (式中Aはアルカリ金属元素, x は1~5の範囲の数を示す) で示されるアルカリ金属硫化物又は還元性物質の存在下又は不存在下にアルカリ金属源およびイオウの混合物とを非酸化性雰囲気中で加熱しウルトラマリングリーンを得、次いで該ウルトラマリングリーンを酸化性雰囲気中で加熱してウルトラマリンプールを得ることを特徴とするウルトラマリン顔料の製造方法。</p>
28	52-77731 (52. 7. 1)	56-39372 (56. 9.12)	1102484 (57. 6.25)	高純度金属クロムの製造法 (三宅 寛, 本田 昭, 田中 義雄, 水野 一男)	酸化クロムを1,100~1,400°C, 0.5~20トールで炭素還元し, その際3時間から12時間の還元反応時間内で前記時間を調節することによって酸素0.1~2%, 炭素0.1%以下の一次還元生成物とし, 次いで該生成物を水素雰囲気中, 1,300~1,600°C で16~26時間更に還元することを特徴とする高純度金属クロムの製造法。
29	53-144054 (53.11.24)	56-47221 (56.11. 9)	1102497 (57. 6.25)	顔料用組成物及びその製造法 (田村 幾夫, 杉山 則正, 月館 隆明, 有家 潤二)	<p>(1) 化学組成が <math>M_2O</math> 10~30重量% (<math>M_2</math> はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす) <math>Al_2O_3</math> 20~40重量% <math>SiO_2</math> 25~45重量% S 5~25重量% の範囲内にあり, 結晶系が立方晶系で, その格子定数が約123Åであり, 面間隔7.14Å, 4.11Å, 3.72Å, 3.30Å及び3.00Åに相当する5本の強い線, 面間隔12.40Å, 8.75Å及び4.36Åに相当する3本の中程度の強さの線並びに面間隔5.52Å及び5.05Åに相当する2本の弱い線を示すX線回析図形をもって特色づけられ, かつ黄色乃至緑色を有する顔料組成物。</p> <p>(2) 一般式 <math>M_2O \cdot Al_2O_3 \cdot 2SiO_2 \cdot 4.5H_2O</math> (式中 <math>M_2</math> はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす。)</p>



№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					<p>で示される結晶性のA型ゼオライトと、 一般式 <math>A_2Sx</math> (式中Aはアルカリ金属, x は1より大きい数を表わす。)</p> <p>で示されるアルカリ金属硫化物とを, 非酸化性雰囲気下 300~600°C で加熱し, 化学組成が</p> <p><math>M_2O</math> 10~30重量% (<math>M_2</math> は前記と同じ) <math>Al_2O_3</math> 20~40重量% <math>SiO_2</math> 25~45重量% S 5~25重量%</p> <p>の範囲内にあり, 結晶系が立方晶系で, その格子定数が約12.3Åであり, 面間隔7.14Å, 4.11Å, 3.72Å, 3.30Å及び3.00Åに相当する5本の強い線, 面間隔12.40Å, 8.75Å及び4.36Åに相当する3本の中程度の強さの線並びに面間隔5.52Å及び5.05Åに相当する2本の弱い線を示すX線回折図形をもって特色づけられ, かつ黄色乃至緑色を有する組成物を得ることを特徴とする顔料用組成物の製造法。</p>
	53-145361 (53.11.27)	56-47222 (56.11.9)	1102498 (57.6.25)	青色無機顔料及びその製造法	<p>(1) 化学組成が</p> <p><math>M_2O</math> 10~30重量% (<math>M_2</math> はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす。) <math>Al_2O_3</math> 20~40重量% <math>SiO_2</math> 25~45重量% S 5~30重量%</p> <p>の範囲内にあり, 結晶系が立方晶系で, 格子定数が12.3Åであり, 面間隔7.14Å, 4.11Å, 3.72Å, 3.30Å及び3.00Åに相当する5本の強い線, 面間隔4.36Å及び3.42Åに相当する2本の中程度の強さの線並びに面間隔5.05Åに相当する1本の弱い線を示すX線回折図形をもって特徴づけられる青色無機顔料。</p> <p>(2) 一般式</p> <p><math>M_2O \cdot Al_2O_3 \cdot 2SiO_2 \cdot 4.5H_2O</math> (式中 <math>M_2</math> はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす。)</p> <p>で示される結晶性A型ゼオライトと, 一般式 <math>A_2Sx</math> (式中Aはアルカリ金属, x は1より大きい数を表わす。)</p> <p>で示されるアルカリ金属硫化物とを非酸化性雰囲気下 300~600°C で加熱し, 次いで得られた生成物を酸化性雰囲気下 300~600°C で加熱し, 化学組成が</p> <p><math>M_2O</math> 10~30重量% (<math>M_2</math> はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす。) <math>Al_2O_3</math> 20~40重量% <math>SiO_2</math> 25~45重量% S 5~30重量%</p>

30

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					の範囲内にあり、結晶系が立方晶系で、格子定数が12.3Åであり、面間隔7.14Å, 4.11Å, 3.72Å, 3.30Å及び3.00Åに相当する5本の強い線、面間隔4.36Å及び3.42Åに相当する2本の中程度の強さの線並びに面間隔5.05Åに相当する1本の弱い線を示すX線回折図形をもって特色づけられる青色粉末を得ることを特徴とする青色無機顔料の製造法。
31	53-154213 (53.12.15)	56-47220 (56.11.9)	1102500 (57.6.25)	イソインドリノン系顔料の精製法 (藤井 修, 高野 操, 魚谷 武, 岩本 英次)	粗製イソインドリノス系顔料を芳香族炭化水素溶剤に分散し、これにアルカリ金属又はアルカリ土類金属のアルコラート又は水酸化物とアルコール及び/又は水とを添加し、該顔料のアルカリ塩を形成し、次いでこれを分離し、得られた該顔料のアルカリ塩を再び芳香族炭化水素溶剤に分散し、酸を用いて加水分解することを特徴とするイソインドリノン系顔料の精製法。
32	49-60310 (49.5.30)	56-52103 (56.12.10)	1104992 (57.6.25)	金属クロムの製造法 (川上 登, 加藤 徹, 伊藤富士隆, 天満 覚)	クロム含有鉱石を炭素質還元材の存在下電気炉で還元して得られる高炭素フェロクロムを塩酸で溶解し、溶解残渣を除去した溶解液中に含まれる鉄イオンを酸化して三価の鉄イオンとし、ついで抽出剤で前記溶解液中の鉄分を抽出除去し、更に必要に応じて抽出剤で溶解液中の不純物を抽出除去し、クロム分を含む残液のクロム濃度を調節し、この残液を電解液として電解して金属クロムを得ることを特徴とする金属クロムの製造法。
33	54-67511 (54.6.1)	56-51234 (56.12.3)	1107360 (57.7.30)	グリコール類の製造方法 (齊藤 光高)	ホルムアルデヒドからグリコール類を電解により製造する方法において、炭素系電極を陰極に用い、アルカリ溶液中でホルムアルデヒドを電解することを特徴とするグリコール類の製造方法。
34	48-92101 (48.8.18)	56-52885 (56.12.15)	1108369 (57.8.13)	1,2,3,4-テトラクロロブタンの異性化方法 (ピーター・ジョン・ニコラス・ブラウン) (B.P.より譲受)	1,2,3,4-テトラクロロブタンのdl体及びmeso体間の異性化反応において、触媒として塩化アルミニウムの存在下でおこなうことを特徴とするテトラクロロブタンの異性化方法。
35	53-89417 (53.7.24)	57-1239 (57.1.9)	1108434 (57.8.13)	ビートジュースの精製方法 (新堀 圭介, 杉本 保幸, 安藤 時也, 酒井 重男) (オルガノ(株)と共願)	ビートジュース精製方法において、アルミニウムおよび鉄の中から選ばれた少なくとも一種の金属成分を含む金属成分と、カルシウムおよびマグネシウムの中から選ばれた少なくとも一種の金属成分を含む水溶液から、それら成分を不溶化することにより形成した共沈物の脱水固形物からなる吸着剤に、40~100°Cでカラメル物質、ポリフェノール-鉄-複合体、メラニン、メラニンなどの着色物質含有ビートジュースを接触させ、該着色物質を吸着剤に吸着させ、かつ処理液pHを8~9に調整する第一工程と、該吸着剤を無機塩類水溶液に接触させ、吸着剤を再生する第二工程とよりなることを特徴とするビートジュースの精製法。